

## 全校みんなで

### 「おもいやり あふれる学校」に

附属小の玄関には、「おもいやり あふれる学校」とかかれた大きな旗が掲げられています。ゆめタイムの「マナー安全部」のみんなが作ったものです。子供たちも教職員も保護者の方々も目にし、エネルギーをもらっています。



「おもいやり」とは、相手の気持ちに共感したうえで「相手のために何か自分ができることはないだろうか」と考え、行動しようとする気持ちです。相手の様子に気づき、相手の気持ちを想像し、相手のために何かしよう！と思う心です。

前期で学級、学年、ファミリー活動や異学年交流、ゆめタイムやであう学習などでたくさんのつながりができた私たち。そのつながりを深めていくために、後期はさらに、「おもいやり」の心を行動や態度でお互いに伝えられるようになれるといいですね。例えば、「やったあ！」と喜んでいる人には笑顔で拍手を贈る、泣いている人がいたらそっとそばに寄り添う、困っている人の思いを最後まで聞いて受け止める・・・小さなことでも、人が思いを寄せてくれたことはとてもうれしく、心が元気になります。そして、それは子供も大人も同じです。私たち全校みんなで、さらに「おもいやり あふれる学校」をめざして、お互いを大切に過ごしていきましょう。

### 「わたしたちが学校をつくる」思いが ゆめタイムの活動から 伝わってきます

右の写真は、「ゆめタイム」で5,6年生が学校をよりよくしようと活動している様子です。今年度は活動の制限が解除され、やろう・してみたいと思うことを伝え合い、友だちと協力しながら一緒に取り組むことを大切にしながら進めており、どの部ものびのびと活動する様子が見られます。その成果が、前期後半から目に見えて伝わってきます。



例えば、各階の廊下を歩いていると、「附小人権部」が作ったメッセージ付きの白いコーンが置いてあります。「思いやり みんなですれば 笑顔咲く」などの言葉や絵が描かれていて、心がほっとします。立ち止まるので事故防止にもなっています。

また、階段の手すりが見やすい色で塗られています。「附小きれいにし隊」のみんなが1本1本でいいペンキ塗りをしました。白壁に映えて美しいです。

外に出ると、花壇がすっきりと整備されています。春に向けた準備が進んでいることが伝わります。これは「環境管理部」の活動です。



これらは、15ある部の活動のほんの一例です。各部の活動では、先生は材料の調達や作業の補助はしますが、企画や運営は全て子供たちが行っています。1年の目標や活動の計画を自分たちで立てて、実行しています。

今年度の合い言葉「わたしたちが学校をつくる」が、子供たちの姿に現れてきたことが喜ばしいです。子供たちが主体となった学校づくりは、附属小が伝統的に大切にしてきた校風であり、制限された3年間を経ても復活できるのは、さすが「ふしょうっこ」だと誇らしく思います。

後期も、ふしょうっこ集会、音楽会を始め、楽しい行事が全校でも学年でも次々と予定されています。自分たちのよさを生かし附小を盛り立てていくよう期待しています。



## これからの教育の方向性を見つめ、 日々の授業実践につなぐ「教育研究」



附属小学校の使命として、前号では「教育実習」についてご紹介しました。今号は、「教育研究」についてご紹介します。私たちの教育研究は、これからの教育の方向性を見つめ、未来を担う子供たちに今育みたい資質・能力に焦点をあて、各教員がもつ教科の専門性を活かしながら、子供たちとつくる授業実践を軸に進める研究活動です。

令和4年度より、研究主題を

### 「未来を自ら切り拓く資質・能力が育まれるために必要な『真の探究』を明らかにする」

として、教育研究に取り組んでいます。今年度は2年次にあたります。

本校の研究における「真の探究」とは次の2つを指しています。

#### ① 連続した探究によって、知識や価値や創造物を深化させる

学びの対象に関わり、問いを見だし、友達と協働して問題解決する、この探究を子供が主体となって繰り返し行うことで、未来を切り拓くために必要な資質・能力を深化させる

#### ② 各教科ならではの見方・考え方が、汎用的に使えるようになる

教科ならではの見方・考え方が、前述の探究を通してより洗練し、1つの学習（単元）にとどまらず、教科を超えた全く別の場面でも活用できるようになる。



子供たちは、教科固有の見方・考え方を働かせて探究することで、その教科ならではの資質・能力を育むことができます。また、学習のまとまりである単元と単元とをつなぐ教科ならではの見方・考え方を系統的に育てていくことで、未知の問題場面に出合ったときにも、育んだ見方・考え方を働かせて、子供たち自身の手で、最適解を生みだしていくことができます。厳しい挑戦の時代に、**自ら社会に関わり、人に関わり、事物現象に関わりながら、未来を自分たちの手で切り拓く力を育む。**この考えのもと研究を進めています。

年間で全教員が1人1回以上の授業提案を行い、それを踏まえた授業研究会を軸に、研究活動を進めています。

研究発表等の情報は全国の附属学校に発信しており、研究の成果をまとめた冊子は関係機関や県内全小学校に届けています。また、各教員は、県内外の各教科部会や研究会に出席し、研究をもとに発表や提言を行っています。

私たちの研究は、授業実践をもとにした地道な取組です。教員は自身の研究教科を軸に、担当学級で子供たちとつくる授業をよりよいものにしていくと、日々、工夫・改善を図っています。また、研究の成果を、毎日の授業実践に必ず活かし、子供たちの学びの向上につなげていきます。附属小の研究活動に、今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

### ★11月3日（金・祝） 第77回教育研究発表協議会

1年に1度開いている研究発表協議会です。全国からたくさんの先生方が来校されます。

本校の全教員が研究教科の授業を公開します。授業後の分科会では、各教科の研究提案をし、参会者と協議を行います。全体会では基調提案とともに、1年次から本校研究に関わり、度々来校してご指導いただいている、**上智大学総合人間科学部教育学科 教授 奈須 正裕 先生** にもご講演をいただく予定です。

- ・11月3日は「登校日」です（6日（月）振替休日）。下校時刻は各学級の週予定表をご確認ください。
- ・教員対象の行事のため、当日は保護者の皆様の参観はありません。
- ・当日、PTA 評議員の皆様へ、受付等の支援をいただく予定です。ありがとうございます。
- ・各教科の授業や研究活動については、今後も学級通信や学校 HP 等で随時ご紹介します。